

# ガンコ親父の

「お父さん、県内の最高齢者は113歳だって。喜界島の人らしいわよ」と妻の貴代が言った。「酒がウマい地方は長生きする人が多いって、本当だろう」と松次郎は持ち前の持論で応えた。ギネスブックに長寿で載ったこともある泉重千代さんは40年も黒糖焼酎を飲んでいたという。「俺もこの調子だと長生きは間違いない。そう思わんか?」「はいはい、元気でいてくださいな」「はいはい一回でいいい!」長寿の話をしながらも、二人には新しい命が気になって仕方がなかった。花菜の出産が近づいていたからだ。それにしても最近、妊娠の夫である学の帰りが遅くなっている。学を外した三人で夕食をとることが当たり前になっていった。

飯は一緒に食わなくてはいけないと思っている松次郎にはそれが不満だった。会社でも「釜の飯」派の松次郎に言わせれば、一緒に食卓を囲まない家族なんて、絶対に家族ではなかった。

「最近、学はどうしたんだ? 毎日遅いじゃないか」と松次郎は花菜に尋ねた。「仕方ないですよ。忙しいの」と言いながらも寂しそうだ。それにしても、最近食卓にいないし、松次郎の気持ちと、身重の花菜の心を無視しすぎではないだろうか。久しぶりの怒りが松次郎の心に芽生えた。

家で怒鳴ると身重の花菜に良くないからと、外で息子の学に説教をしようと思いついた。退社後、松次郎は学の会社に向かった。すると、丁度タイムング良く、会社のビルから学が出てきて、松次郎と反対の方向に歩き始めた。こんな時間に仕事は終わるはずがない。声を掛けようと思ったが、学の歩くスピードが速すぎて、数十メートル後をついていくのが精一杯だった。

いくつかの路地を曲がって、やがて一軒の屋敷にたどり着いた。学は門の前でキョロキョロと回りを落ち着きなく見渡すと、そのままさっと入っていった。松次郎の前を歩いていった若い女性も門の中に消えていった。いったいどうなるんだ。しゃれたプレートが門にかかっていた。松次郎は混乱したまま、その表札代わりのプレートの文字を眺めた。

学は夜遅く帰宅すると、一人の食卓に向かった。なぜか、松次郎が一人で酒を飲んでた。「まあ、座れ」と学に声を掛けた。そしてコップを渡すと、「しまっちゅ伝蔵」をゆっくりと注いだ。

「お前、料理を習っているのか?」と学に聞いた。学は一瞬、秘密を知られたことで狼狽した。すぐに観念した学は「出産後、嫁さんに美味いもんを食べさせようと思って、料理教室に通っていたんだ」「そうか、みんなには驚かそうと思って、黙っていたんだな」と松次郎は言った。学は「くんと首を縦に振った。「親父だつて、みんなを驚かそうとして、くす玉を手づくりしてたじゃないか」少しの沈黙をはさんで、「お前は、やっぱり俺の子だ」と、しみじみとつぶやいた松次郎の目は涙がにじみ始めていた。

奄美黒糖焼酎

伝蔵

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎  
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、今年の収穫に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」は、黒糖焼酎の味を全副に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)

2013年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

25度  
好評発売中

喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2986番地12  
09697(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、認定されました。喜界島酒造は、この認定を誇りにしています。



The most beautiful villages in Japan  
喜界島  
KIJIMA

# 俺の子に乾杯!